

第2回「万葉集を楽しむ会@花奈雅和（かながわ）」のご報告

万葉集を楽しむ会@花奈雅和は8月21日に15名の参加者で第2回目を迎えました。今回は日程の関係で5名の方が先生の他の教室に参加され、書記のわたしも銀座オフィスで開催の東京支部の教室に参加しました。

第2回目は「ベニバナ（以下：紅花）」がテーマです。エチオピア原産と言われ、日本には3世紀ごろ渡来し、すでに染料として使われていた(巻向遺跡)ようです。草木染は草や木で染めるのですが、花そのものが染料として使われるのは紅花だけで、他に口紅や茶、油、煤からは墨も作られ、生薬としては女性の冷え性、更年期障害にきくすぐれものです。

紅花というと鮮やかな赤色を連想しがちですが、染め方によって黄色やオレンジ色やピンクっぽいものもあります。紅花はもともと呉（くれ：中国）の藍と呼ばれ、それが紅（くれない）となり、紅と藍（蓼から作る青い染料）と共に二大染料と言われていました。「藍」というのは染料という意味で、二つの藍で染められたものが二藍（ふたあい）で、その量によって様々な色合いが作られます。さて、紅花の別名が末摘花と聞いて源氏物語の一女性を思い浮かべる方が多いでしょうが、「末摘花」という言葉はすでに万葉集に詠まれています。



←紅花で染めた色

ベニバナ（紅花） 最上紅花（葉はとげがある） 1、黄染め、3、濃き紅 5、韓紅 6、二藍

紅花は万葉集で30首くらい詠われていますが次の2首をご紹介します。

（原文）紅尔 深染西 情可母 寧樂乃京師尔 年之歴去倍吉

（訓読）紅に 深く染みにし 心かも 奈良の都に 年の経ぬべき 6/1044 作者未詳

（意味）紅に赤く染まったように心に深くなじんだ奈良の都に時が過ぎていくことです。

（原文）呉藍之 八塩乃衣 朝旦 穢者雖為 益希将見裳

（訓読）紅の 八しほの衣 朝な朝な 馴れはすれども いやめづらしも 11/2623
作者未詳

（意味）紅の何度も染め抜いた衣のように毎朝慣れて来ましたが、あなたをますます愛しく思います。

はじめの歌は聖武天皇が天平 12 年（740 年）に平城京から^{くにのきょう}恭仁京（現在の木津川市）に都を移したため、平城京の荒れた廃墟を見て昔日の栄華を思って詠まれたものです。2 番目の歌は物に寄せて思いを述べる（寄物陳思）と言われるもので、妻（彼女）に対する気持ちを詠ったものです。どちらの歌も何度も何度も染めて（八しお）深い赤い色にする紅花の染色、その深さを歌にしています。万葉人は紅花の染め方をよく知っていたということですね。いつものようにみんなで声を合わせて読み上げて万葉の調べを堪能しました。

この後、恭仁京への遷都（740 年）を「続日本紀」で確認しましたが、都を移すときは建物などを移築したことがわかりました。745 年には都はまた平城京へと戻されます。平城京からそのまま平安京へ移ったと思っていた私たちには驚きでした。今では平城京跡に第一次大極殿（710 年に作られ、恭仁京に移築された）が復元されています。

先生は紅花の産地として有名な山形県白鷹町（しらたかちょう）を訪れて、実際に紅花を摘んで染色体験をなさったそうです。そのきれいな色に染めあがった布を帯揚として利用し、紅花色の着物に藍染の帯、紅花色の玉飾りの帯留で、紅花づくしでした。

また、唯一、紅花で作る口紅を販売している伊勢半の資料も回覧していただき、お菓子は紅花が入ったものをいただきました。



フラワー長井線（白鷹町へ） 紅花色の着物と藍染の帯 紅花染体験の帯揚 紅花サブレ
白鷹町（やまもり菓子舗製）

最後に参加者の皆さんからいただいた感想をいくつか紹介させていただきますが、これは@花奈雅和に参加の方の感想で、多比良さんがまとめてくれたものです。

- 「高木さんが事前に紅花生産地の白鷹町に行かれたパワーはすごい。自分も行きたくなりました」
- 「紅花を使う二藍の色が、紅と藍の量によって様々な色になることに驚きました」
- 「二つ目の歌の『紅の八しおの衣〜』の意味を知り、改めて夫（妻）に感謝の意を伝えたいくなりました」
- 「今まで自分の領域になかった万葉集の講義を通して新しい分野の歴史の世界が広がりました」（初参加者）
- 「講義の内容を帰宅後、嫁に説明して夫婦の会話が弾むようになったし、愛犬も聞いているかのように静かにしている」これに対して「奥さんにも参加してもらったら」の声と「せっかく夫婦の会話ができるようになったのに（奥さんの参加は）あかん！」と反対の声もあがり笑いがおこりました。



例会の様子①



例会の様子②



伊勢半の「小町紅」

銀座オフィスに参加の方も、熱気あふれるみなさんで「自分へのごほうびで伊勢半の口紅を買います」「紅花は北前船で各地へ運ばれたんですね。帰りの空になった船で各地の珍しい石なども持ち帰ったそうですよ」と話が広がりました。

第3回万葉集を楽しむ会@花奈雅和のお知らせ

開催日時： 10月16日(水) 10:00~12:00
場所： プララ杉田または505号室(京浜急行杉田駅ビル)
参加費： 1500円(お菓子付)

◎今回の参加申し込みは下記へお願いいたします。

水野裕子：shin_zen_bi_yuko@yahoo.co.jp

令和元年9月1日 文責：三浦美智子・高木紀世子

~~~~~  
万葉集を楽しむ会@花奈雅和

講師： 吾意在野游・高木紀世子  
世話役： 水野裕子(代表世話役)、杉本啓子(名簿管理)、三浦美智子(書記)  
多比良恵子(会計)

~~~~~  
追加情報

万葉集を楽しむ会@花奈雅和の日にご都合の悪い方は下記に参加できます。

参加ご希望の方は直接、講師にご連絡ください。

paksara3t@r7.dion.ne.jp (高木紀世子)

令和元年10月6日(日) 10:00~12:00 杉田地区センターまたは505

10月9日(火) 同上

10月23日(水) 19:00~20:50 同上

10月4日(金) 10:00~12:00 銀座オフィス

会費 1500円
